

【人づくり】

【担当課：産業振興課／農林水産課】	2025年度の 具体的な取り組み内容	2025年度の 課題／困りごと、今後の見通し	該当するKPI ／参考数値
-------------------	-----------------------	---------------------------	------------------

戦略1 地域経済を支える・成長させる人材の育成、確保

課題)子どもたちの地元就職、専門的な人材の確保・誘致、円滑な就職・再就職をサポートすること

<p>●戦術1)産業人材の育成、確保、誘致</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内大学生(出身者も)や高校生と市内企業とのマッチング、就職支援</li> <li>市内及び近隣の大学生や高校生のインターンシップ</li> <li>市内小中学生の市内企業でのビジネス体験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTKOBOMIYAJIMAにおいて、9月8日から9月12日までの期間でインターンシップを実施した。近隣の2大学から計6名が参加し、テーマは「交流」×「デジタル」で未来の浅原地区をデザインすることとした。農業の属人化を課題として捉え、デジタル技術を活用して「情報」と「モノ」をシェアする仕組みを検討し、最終日に発表会を行った。【産業振興課】</li> <li>新規掲載企業8社。7,500部制作し市内の中学高校(全生徒)、近隣大学や二十歳のつどいなどにて配布済み【産業まちづくり委員会】</li> <li>広島修道大学の「観光施策論」の授業を2コマ担当し、市内企業の取組や産業構造、観光施策について講義を行った。【産業振興課、観光課】</li> <li>宮島工業高校での就職説明会に50社が出展したが、地元企業は2社にとどまった。【廿日市商工会議所】</li> <li>JA職員や市農業指導員が中心となって、佐方小など市内小学生への米作り体験授業(植付→収穫→調理)を行うこととしている。【農林水産課】</li> <li>JA長なす部会が主となって、津田小やせせらぎ園では、栽培についての基礎的な講話を実施したり、作付けから収穫、調理まで行われた。【農林水産課】</li> <li>8月にJA、FMIはつかいちと連携し、中央市民センターにおいて市内の小中学生を対象に、長なすの料理教室(地産地消推進事業)を開催した。【農林水産課】</li> <li>キャリアスタートウィークは学校主導で継続。【廿日市商工会議所】</li> <li>中学生の5日間職場体験を継続。商工会で1人受入れの実績。他にも複数の事業所が受入れ、地域を知る機会を提供しUターン喚起を期待。【宮島町商工会】</li> <li>中学生の職場体験を地域の多様な事業所で受入れ、地域理解と職業観の形成を促進。【大野町商工会】</li> <li>小学校の総合学習で伝統工芸(宮島彫り)体験を恒例実施。【宮島町商工会】</li> <li>佐伯高校のSAEKI QUESTに津田商店街を創る会として協力。地元事業者における小中学校の体験受入れ例複数あり。【佐伯商工会】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターンシップを受け入れている企業の把握を目的として、アンケート調査の設問項目に追加し、実態を継続的に把握していく必要がある。【産業振興課】</li> <li>次年度は配布先ターゲットを絞った上で、効果的な周知を行う。【産業まちづくり委員会】</li> <li>特に大学生、高校生の確保策が不足。若年層及び保護者への地元企業の認知度向上が不可欠。【廿日市商工会議所】</li> <li>市内の他の小中学校、市民センターにおいても、取組みを広げていきたいが、相手側の授業カリキュラム、主催事業との調整が必要で、主体性も求められる。【農林水産課】</li> </ul>	<p>インターンシップ受入企業数【10社】</p> <p>本市に住み続けたい、または将来に戻ってきたいと思っている小中学生の割合【85%】</p>
--	---	--	---

【人づくり】

【担当課：産業振興課／農林水産課】	2025年度の 具体的な取り組み内容	2025年度の 課題／困りごと、今後の見通し	該当するKPI ／参考数値
-------------------	-----------------------	---------------------------	------------------

戦略1 地域経済を支える・成長させる人材の育成、確保

課題)多様な就労ニーズを踏まえた働き方の提案と職場環境の充実を促進させること

<p>●戦術2)多様な働き方の実現と就職支援の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若者、女性、子育て世帯、シニア、障がい者、外国人等の就労ニーズの把握</li> <li>ワークシェアリングや副業等といった多様な働き方の促進</li> <li>ビジネス教育訓練の強化を通じたデジタル人材や専門技術者の育成</li> <li>業種を超えた再就職の支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>株式会社タイミーと廿日市が12月に「包括連携協定」を締結。多様な担い手の確保を通じた市内の経済活性化を推進していく。【産業振興課】</li> <li>廿日市市雇用対策協定に基づき、雇用対策に対する関係課の取り組みやハローワークとの連携を確認し、引き続き一体となって雇用対策を推進していく。【産業振興課】</li> <li>若者・障がい者向けの助成制度の案内や求人冊子制作に協力。【佐伯商工会】</li> <li>全業種で人手不足。ホテルの新規開業に伴い人材の争奪戦が顕在化。地域冊子「プレス大野」で小規模事業者の特長を発信中(4年目)。【大野町商工会】</li> <li>労働局の助成金を活用した求人支援事業として、求人広告掲載、短期離職防止セミナー、「宮島で働く価値」を訴求する「宮島お仕事探しサイト」(求人検索・応募機能)構築を実施。【宮島町商工会】</li> <li>11月に子育て世代、シニア世代をターゲットにハローワーク廿日市と共催して就職ガイダンスを開催。参加企業18社、来場者数93人。1月末時点で4名採用、内2名正社員。【産業まちづくり委員会】</li> <li>「子育て世代・シニア世代が働きやすい職場づくり」セミナーには21社23名が参加、「障がい者雇用促進」セミナーには33名が参加、「女性が働き続けたい職場とは」セミナーには参加事業者28社、38名。いずれもハローワークと共催で実施済みであり、全セミナーではラウンドテーブル形式による意見交換を行った。現場の実情について意見を交わすことで、当事者意識の醸成と課題の明確化につながった。【産業まちづくり委員会】</li> <li>ダイバーシティ経営に取り組む企業の事例紹介として、5社を取材し「今こそ廿日市」に掲載した。紹介ページへ誘導し、閲覧数を増やすため、SNS広告を発信した。【産業まちづくり委員会】</li> <li>地域全体でこども・子育て世代を応援する機運を高め、働きやすい環境づくりを推進するため、「はつかいち子育て応援宣言企業」登録制度を開始し、71事業者の登録があった。【産業振興課】</li> <li>男性の育児休業取得や子の看護等休暇取得を促進し、働きやすい職場環境の整備を推進するため、「男性育児休業取得促進奨励金」「男性の子の看護等休暇制度導入奨励金」を開始した。「男性育児休業取得促進奨励金」は11件の申請があった。【産業振興課】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まずは、農業や水産などの一次産業の分野に重点を置き、人材確保や魅力発信に取り組む。【産業振興課】</li> <li>スキマバイトサービス活用セミナーは参加が伸びず、新しい人材確保手法の啓発が進まず。主婦・シニアの活用も実績が伸び悩んでいる。【廿日市商工会議所】</li> <li>スキマバイトサービス等の短期即時型の求人は、費用や待遇差の面があり、小規模事業者にはハードルが高い。【大野町商工会】</li> <li>水産業、建設業等で外国人材雇用が進んでいることから、来年度セミナーを計画。【大野町商工会】</li> <li>求人支援事業は今年度で一旦終了予定。継続の場合は助成金の再申請を検討。【宮島町商工会】</li> <li>就職ガイダンスは次年度もターゲットは子育て世代、シニア世代を中心に2月開催で検討を行っている。【産業まちづくり委員会】</li> <li>合同就職説明会への参加は、小規模事業者には負担が大きい。【大野町商工会】</li> <li>「はつかいち子育て応援宣言企業」登録企業のPR、認知度向上のための更なる取り組みが必要。【産業振興課】</li> <li>「男性育児休業取得促進奨励金」「男性の子の看護等休暇制度導入奨励金」の利用促進及び制度の見直し。【産業振興課】</li> <li>労働環境整備(育休制度等)未整備の中小・小規模が多く、選ばれる職場づくりが重要。【廿日市商工会議所】</li> </ul>	<p>ワーク・ライフ・バランスに取り組んでいる企業数【114社】</p> <p>ビジネス教育訓練や、デジタル人材育成に係るセミナー開催数【15回】</p>
--	---	---	---

【人づくり】

【担当課：産業振興課／農林水産課】	2025年度の具体的な取り組み内容	2025年度の課題／困りごと、今後の見通し	該当するKPI／参考数値
-------------------	-------------------	-----------------------	--------------

戦略1 地域経済を支える・成長させる人材の育成、確保

課題)地域資源・産業特性×デジタル技術による創業を支援すること

<p>●戦術3)創業の支援</p> <p>・しゃもじん創業塾やビジネスプランコンテスト等の開催 ・しゃもじんキューブのあり方の見直し、機能強化</p>	<p>・しゃもじん創業塾を開催。(6/24. 7/1. 7/8. 7/15. 7/29計5回)。今回も定員以上の申込があるなど盛況で45名が参加(延べ214名)。【産業まちづくり委員会】</p> <p>・しゃもじん創業塾入門編を令和8年2月9日に開催。申し込み36名、当日参加者26名(前日大雪のため欠席者10名)【産業まちづくり委員会】</p> <p>・創業計画申請は市全体で27件。創業塾参加者が増加し、創業地として選ばれる動きが強まっている。創業相談は1人あたり月2～3件のケースあり。【廿日市商工会議所】</p> <p>・創業計画申請5件(うち3件採択)。津田商店街の成功例が注目され、津田商店街での創業相談が増加。市創業支援補助金は実効性が高い。【佐伯商工会】</p> <p>・創業件数は約10件、既存施設の改装・転用による宿泊施設や長期ステイ施設の開業が複数あり。【大野町商工会】</p> <p>・物件問合せはあるが、正式な創業相談は少数。【宮島町商工会】</p>	<p>・産業振興の目的と整合させるため、地域課題解決型・コミュニティ型など、税金に直結しづらい創業モデルの取扱いについて再整理が必要。【廿日市商工会議所】</p> <p>・創業向け物件の不足が課題。居住中、所有者不在などで物件の流動率が低い。物件情報の可視化や仲介が必要。【佐伯商工会／宮島町商工会】</p> <p>・来年度、民泊・ゲストハウス・飲食店などが創業見込み。重要伝統的建造物群保存地区の建物活用の動きあり。【宮島町商工会】</p>	<p>創業支援事業計画を活用した市内創業者数【110人】</p>
---	--	---	----------------------------------

課題)コロナ禍における事業承継の対策強化を図ること

<p>●戦術4)事業承継、第2創業の支援</p> <p>・事業承継や第2創業を促進させるセミナー開催やマッチング</p>	<p>・セミナーを通じ、事業承継の全体像・承継のポイント・M&amp;Aの概要など事業承継について周知を行った。【廿日市商工会議所】</p> <p>・個別相談会として、個別相談対応:2事業所、事業承継センターの相談員との個別相談:延べ8回を実施した。うち1件は令和8年事業承継予定(親族間)、このほか持続化補助金／事業承継枠での申請支援を行った。【廿日市商工会議所】</p> <p>・事業承継センターの関与案件が2～3件あり。第三者承継の相談が飲食業、建設業などで発生。事業承継セミナーへの参加は低調。【廿日市商工会議所】</p>	<p>・事業承継の相談は多くはないが、課題として捉えてもらうために継続してセミナー開催や個別相談会の実施を予定している。【廿日市商工会議所】</p> <p>・廃業する事業者と開業する事業者等を繋げるなどの経営指導を通じ支援を行っていく。【廿日市商工会議所】</p> <p>・M&amp;A、事業承継のノウハウ、データベースの蓄積がなく属人化の傾向。空き家・定住支援のような事例蓄積サイトがあると良い。行政の公的信用を基盤とした小エリアでのプラットフォームが有効。【廿日市商工会議所】</p> <p>・事業承継問題は悪化傾向。後継者との世代間のコミュニケーション不足が課題。時期やタイミングを配慮した個別支援が必要。店舗物件の流動化に向けて、所有者(居住中、域外居住等)のマインド転換が課題。【佐伯商工会】</p> <p>・空き家活用事業の立ち上げなど、事業承継に関連する動きがある。【宮島町商工会】</p>	<p>産業支援機関等を活用した事業承継成立件数【5件】</p> <p>産業支援機関等を活用した空店舗等の再生件数【10件】</p>
--	---	---	---

●戦術5)商店街等のリーダー育成と多様なプレイヤーの呼び込み

<p>・空き店舗等の活用 ・持続可能なにぎわいづくりや地域課題を解決するビジネスの支援</p>	<p>・けん玉商店街沿い、廿日市一丁目集会所横の空き地(市有地)を、誰でも気軽に集まれる芝生広場として整備した。8月8日のオープニングイベント後、芝生養生期間を経て9月末から常時開放としている。9月末から1月末まで、商店会を始め11件のイベント利用があり、少しずつ認知されつつある。【産業振興課】</p> <p>・地域支援員(商店街担当)の参画で、空き店舗活用やにぎわいづくりの動きあり。商店街で4～5件の新規創業、既存ビルの補修工事が進み、空き店舗解消の動きあり。【廿日市商工会議所】</p> <p>・商工会青年部の活動が活発で、リーダー的人材が育っている。【大野町商工会】</p> <p>・会員事業者が多く参画している吉和農援隊が市連携補助金を活用し、吉和ふれあい交流センターにて定期マルシェを試行中。【佐伯商工会】</p> <p>・津田商店街を創る会実施のイベントは、年3～4回の小規模マルシェ開催へ移行。【佐伯商工会】</p>	<p>・公園のように日常的に子どもから大人まで、自由に使ってもらいたいが、なかなか周知が行き届いていない点がある。イベント開催時は、市公式LINEや広場のInstagramなどで周知しているが、「知らなかった」と言われることが多いため、周知方法を模索している段階である。【産業振興課】</p> <p>・来年度は、吉和農援隊による定期マルシェを月1回開催予定。生産者の収益拡大への意欲と供給の安定化が課題。【佐伯商工会】</p> <p>・津田、吉和のみならず、浅原、玖島など他地区における活動にも注目する必要がある。【佐伯商工会】</p>	
---	---	--	--

【循環させる】

【担当課：産業振興課／農林水産課】	2025年度の 具体的な取り組み内容	2025年度の 課題／困りごと、今後の見通し	該当するKPI ／参考数値
-------------------	-----------------------	---------------------------	------------------

戦略2 市内を縦断する食産業「フードバレーはつかいち」の創出

<p>課題)食品製造業との連携のもと、多様な担い手の育成や生産性の向上を図ること 食育の推進により地産地消や健康づくりへの理解が深まること 環境との共生やSDGsへの対応により持続可能な経済活動に取り組むこと</p>			
<p>●戦術6)農業の多様な担い手の育成と経営力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認定農業者や新規就農者の育成</li> <li>・集落法人や農作業受託組織の支援</li> <li>・民間企業や半農半X など地域農業を支える多様な担い手の育成</li> <li>・DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進等によるスマート農業の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定農業者、新規就農者の育成について、市農業指導員を中心に経営改善計画の相談、技術的支援を行っている。【農林水産課】</li> <li>・佐伯地域、吉和地域の農作業受託組織への機械導入支援などを行った。【農林水産課】</li> <li>・昨年に引き続き、若手生産者を中心に「廿日市美味しいプロジェクト」が進んでおり、市も伴走支援を行っている。【農林水産課】</li> <li>・苺事業者(3社)の連携で、イベント共同出店・商品開発を実施。今年から苗の栽培・販売を試行し、安定供給・外販に着手。【佐伯商工会】</li> <li>・夏季の草刈り・農薬散布の外部委託ニーズが増加。ドローン散布や請負への引き合いが多い。【佐伯商工会】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定農業者など主な担い手は、独自のルートを持っている生産者が多いため、その状況把握が必要。また、こうした動きに連動した流通の仕組み作り、新たな売り先の確保など、生産量を増やす取り組みが必要。【農林水産課】</li> <li>・農地付き空き家・農地利用の問い合わせが増加。空き家同様に土地情報の整理が必要。【佐伯商工会】</li> <li>・農業志望者は多いが趣味・家庭菜園レベルが中心のため、事業化への伴走が必要。【佐伯商工会】</li> </ul>	<p>JA産直市場の売上高【2.2億円】</p> <p>認定農業者数【42】</p> <p>認定農業者の内スマート農業に取り組む者【10】</p>

<p>課題)食に係る商品やサービスの価値を高めること 食育の推進により地産地消や健康づくりへの理解が深まること 環境との共生やSDGsへの対応により持続可能な経済活動に取り組むこと</p>			
<p>●戦術7)水産業の6次産業化の推進と環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・瀬戸内海の景観を活かしたかき小屋等のロケーションビジネスの展開</li> <li>・水産資源を活かした新商品の開発、ブランディングの促進</li> <li>・かき筏等の処理対策等による環境保全の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広島炭化工業株式会社への、廃かき筏の竹限定で一般廃棄物処分業の許可をR7.9月に行い、市内漁協に対し受入要件や注意事項等の説明を行ったが、現時点において、炭化工業への廃かき筏の受入実績はない状況となっている。【農林水産課】</li> <li>・フロートの減容処理や、株式会社TEGOと連携した廃かき筏のチップ化の取組を、引き続き実施している。【農林水産課】</li> <li>・R7年度に発生したかきの大量へい死の被害を受けたかき養殖業者の経営改善や安定化に向けた対策として、共済掛金への上乗せ補助や、融資に係る利子補給の予算を計上し、かき養殖業者への融資を開始した。【農林水産課】</li> <li>・かき養殖漁場の底質改善を目的に、かき殻散布及び海底耕耘の効果検証試験を地御前海域で実施した。今年度は、昨年度の約2倍の量のかき殻散布を行っている。【農林水産課】</li> <li>・かきの大量へい死の被害を受けたかき養殖業者の要望を受け、廿日市浄化センターに加えて、大野浄化センターでの能動的運転管理の実証試験をR8.1月から開始した。【農林水産課】</li> <li>・昨年度発生した大野あさりの大量へい死の原因究明のため、水温の連続観測やモニタリング調査を県と連携して実施した。へい死の影響を受け、生産量は少ない状況が続いている。【農林水産課】</li> <li>・カワウ対策として、今年度も宮島北部沿岸に形成されるねぐらに対し、漁協・国・県と連携して防除対策を実施した。結果、県内最大規模のねぐらであった宮島杉ノ浦のねぐらは解消状況となっている。【農林水産課】</li> <li>・昨年に引き続き、木野川において、放流アユの定着性向上に向けた、適地放流効果の検証試験を実施した(吉和川漁協へ委託・R5～9年度の5か年を予定)。【農林水産課】</li> <li>・改良メダカの品評会及びまつりを春と秋の2回行った。(秋は品評会のみ開催)【農林水産課】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃かき筏やフロート処分に関して、引き続き、漁業者の意識改革が必要である。【農林水産課】</li> <li>・かきのへい死対策として、引き続き、かきの生育状況やかき養殖業者の経営状況に注視し、必要な対策を検討する必要がある。R8年度の対策として、かき筏等の資材価格高騰対策や漁場環境実態調査の実施を予定している。【農林水産課】</li> <li>・牡蠣の生育状況は例年の7～8割と低調。アサリの減少を含めて、気候影響が顕在化。資金関連の相談が今後発生する可能性あり。【大野町商工会】</li> <li>・牡蠣の生育状況は事業者間で差異が大きい。温暖化に対応した牡蠣の栽培・養殖方式への切替余地がある。【宮島町商工会】</li> <li>・大野あさりの大量へい死の原因特定や対策について、引き続き、研究機関の意見を踏まえた調査研究が必要である。市が支援する必要性についても整理が必要。【農林水産課】</li> <li>・引き続き、関係機関と連携した継続的な対策が必要である。コロニー化している宮島平根については、繁殖時期となる4～6月頃に、市捕獲班の協力を得て銃器捕獲を行う予定。【農林水産課】</li> <li>・アユ種苗の確保や、河床を含む河川環境の変化、排水の影響など、様々な要因がある中で、定着性の検証が非常に難しい状況にある。【農林水産課】</li> <li>・太田川流域のブランド化など、内水面漁業における一体的な取組展開が望ましい。【佐伯商工会】</li> <li>・市役所ロビーでの開催も2年目を迎え、主催者も来客者も、この場所での開催が浸透しつつある。改良メダカのPRIに関しては、引き続き、市として支援が必要かどうか、当課で行うべき事業かの整理が必要。【農林水産課】</li> </ul>	<p>漁業生産額【27億円】</p> <p>漁獲物・収穫物の出荷先として「流通業者・加工業者」や「直接販売」を行っている経営体の割合【0.78】</p>

【循環させる】

【担当課：産業振興課／農林水産課】	2025年度の具体的な取組み内容	2025年度の課題／困りごと、今後の見通し	該当するKPI／参考数値
-------------------	------------------	-----------------------	--------------

戦略2 市内を縦断する食産業「フードバレーはつかいち」の創出

<p>課題)交流や体験、情報発信を通じて、はつかいちの食の魅力を知ってもらうこと 食育の推進により地産地消や健康づくりへの理解が深まること 環境との共生やSDGsへの対応により持続可能な経済活動に取り組むこと</p>			
<p>●戦術8)食の現場ツーリズムの立ち上げ</p> <p>・食品工場や和菓子店、飲食店、かき養殖、果樹農園、農産加工場等の食関連事業者の現場を訪ねる、学ぶ、食べられるツーリズムの商品化、ブランディング</p>	<p>「はつかいち苺プロジェクト」を始動した。市産いちごの魅力を再発見し、生産者と飲食提供店舗をつなぐ取組である。市内いちご農家や市産いちごを使用した飲食店を紹介する「はつかいち苺マップ」を作成した。また、広島駅miobyDotsにて「はつかいち×いちごWEEK」を開催し、市内外へ魅力を発信した。さらに、「恋する森のストロベリーフェア」として、中山間地域のいちご農家とカフェが考案した新規メニューの提供やスタンプラリーを実施した。「はつかいち苺の祭典」では、いちごの食べ比べ、市内高校との連携取組の紹介、加工品の販売などを行った。令和8年度も引き続き実施予定。【観光課】</p>	<p>・2026年度に、「食の旅ツアー」と題して、食の生産現場見学・体験～食品加工工場見学～実食(小売店・飲食店)を実施し、市内産品・企業を認知できるツアーを行う予定。【産業振興課】</p> <p>・農作業、味噌づくり体験などのツーリズム化をめざす動きあり。【佐伯商工会】</p> <p>・近隣への宿泊施設の増加を背景に、牡蠣関連の体験観光がにぎわっている。新たな牡蠣小屋の開業問い合わせもあり。【大野町商工会】</p>	<p>観光農園来客者数【6,600人】</p>
<p>課題)生産者と実需者の取引を盛んにすること 食育の推進により地産地消や健康づくりへの理解が深まること 環境との共生やSDGsへの対応により持続可能な経済活動に取り組むこと</p>			
<p>●戦術9)地元農産物と観光等をつなぐ地産地消の仕組み</p> <p>・宮島及び宮島口、宮浜温泉等の観光事業者や市内飲食店等での消費を促す地産地消の仕組みの検討、構築</p>	<p>・市内経済団体と連携し、10月の1か月間、はつかいち地産地消月間を実施し、市内産農林水産物の魅力をPRした。「モットイナイ廿日市」を食品ロス啓発運動、地産地消推進運動と合わせて食に関する情報を一元化し相乗効果を図る。【農林水産課、産業まちづくり委員会】</p> <p>・広島フードフェスティバル(10月開催)の廿日市ブースに計5店舗が出展し、出展するための調整を市内経済団体と進めた。【農林水産課】</p> <p>・昨年に引き続き、市内経済団体と連携し、はつめしプロジェクトを進めていくため、地産地消宣言店の掲載店を増やす取り組みを進めている。【農林水産課】</p> <p>・かきの大量へい死により、消費が落ち込む市内産かきのPRを図るため、2月に開催された大野かきフェスティバルにおいて、市内産かきの販売やかき料理の販売を行った。【農林水産課】</p> <p>・生育不要により十分量の確保は難しいが、大野のカキ祭りは開催予定。【大野町商工会】</p> <p>・かき職業者への支援策として、市公式Instagramやガバメントクラウドファンディングによる市内産かきのPRや支援のお願いを実施した。【農林水産課】</p> <p>・8～11月の第3日曜日(計4回)に、まちの駅ADOA大野で、生産者団体、市内経済団体と連携した「オーガニック野菜マルシェ」を開催している。【農林水産課】</p> <p>・まちの駅ADOA大野の軒下を無料貸与し、オーガニックマルシェを開催。【大野町商工会】</p> <p>・佐伯地域、吉和地域のいちご生産者とカフェが相互連携し、新メニュー開発と周遊企画を準備中。【佐伯商工会】</p>	<p>・2026年度に、産業振興課、農林水産課、循環型社会推進課が連携し、「廿日市さくらまつり」にて、モットイナイ大作戦の周知・啓発を行う予定。【産業振興課 農林水産課】</p> <p>・地産地消宣言店の取り組みを広く知ってもらい、掲載店を増やしていくほか、市内経済団体と連携して、効果的なPRを行っていく必要がある。【農林水産課】</p> <p>・市内飲食店の求める作物の量や時期と生産者の希望する出荷量や出荷時期に差異が生じており、調整の必要がある。【農林水産課】</p> <p>・飲食店の市内産品の未利用理由として、単価・条件の不一致が見受けられることから、初期の橋渡しが必要。【佐伯商工会】</p> <p>・地産地消宣言店への宮島の店舗登録は少数。外国人観光客に対する産地表示の訴求が弱い。面的な域内循環になれば良いが、収益性の面では域外販路が優位。【宮島町商工会】</p> <p>・本市を代表する産品であるかきの安定生産に向けて、引き続き、PRを図る必要がある。【農林水産課】</p> <p>・マルシェの振り返りを行い、集客力のあるADOA大野を活かした今後の施策展開の検討が必要。【農林水産課】</p> <p>・まちの駅ADOA大野では市内産増を目指しているが、生産者の既存販路、配送などがネックとなり集荷が難しい。生鮮品では同時期・同品種の出荷集中が発生。市外産の仕入れとのすみわけによる売り場の最適化が必要。【大野町商工会】</p>	<p>地元の食材を提供するホテル旅館及び飲食店【10】</p> <p>市内の農林水産物を購入している市民の割合【37%】</p>

【循環させる】

【担当課：農林水産課／産業振興課】	2025年度の 具体的な取り組み内容	2025年度の 課題／困りごと、今後の見通し	該当するKPI ／参考数値
-------------------	-----------------------	---------------------------	------------------

戦略3 森林の育成から木の消費までを結ぶ「木のたびネットワーク」の形成

<p>課題)木のまち・はつかいちを牽引する、多様な事業者やグループを支援すること 環境との共生やSDGsへの対応により持続可能な経済活動に取り組むこと</p>			
<p>●戦術10)木のまち・はつかいちを牽引する企業／挑戦するグループ等の集中支援</p> <p>・木材関連製造業、けん玉メーカー、伝統工芸品の担い手、木工デザイングループ、アップサイクル事業者、林業事業体等の育成、商品開発、販路開拓、情報発信、人材確保等の支援</p>	<p>・広島工業大学とはつかいち木工研究会が協同で木のまち廿日市をPRするため、オリジナル新商品の開発を行った。【産業振興課】</p> <p>・宮島産業まつり(会場:商工会3階)を開催し来場129人(例年70人程度)。出品作品の作風変化、個人所蔵品の鑑定展示など新しい動きあり。応援大使就任、見学ツアー実施。【宮島町商工会】</p> <p>・宮島細工の歴史や作品展示「宮島細工の匠展」を11月20日から30日まで、はつかいち美術ギャラリーにて開催した。市内外問わず多くの方にお越しいただき、合計1,420名の来場者を記録した。また、期間中には地域支援員によるギャラリートークも開催し、大変好評で、より深く宮島細工の魅力を発信した。【産業振興課】</p> <p>・「宮島細工の匠展」(会場:さくらびあ)は来場1,000人以上。地域支援員(伝統工芸継承担当)が中心となり質の高い展示が実現。【宮島町商工会】</p> <p>・宮島伝統産業会館と宮島歴史民俗資料館の機能を併せもつ新ミュージアム基本計画を策定。歴史・伝統を学び、体験できる施設として整備の検討を進めている。【産業振興課】</p> <p>・けん玉ワールドカップの開催に併せて、木工教室や木製遊具で遊べる場の提供など、木とふれあうイベントも開催した。また、今年度から廿日市市内の小学生低学年を対象とした「けん玉ジュニアカップ廿日市2025」を開催し、全6組の参加があった。【けん玉WC実行委員会】</p> <p>・「木のまち はつかいち」をPRするため、広島駅「miobyDoTS」において、8月に木工体験イベント、10月にけん玉イベントを開催した。市外来訪者に対して本市の魅力を発信する機会となり、廿日市市外への効果的なPRにつながった。【産業振興課】</p> <p>・木工関連事業者のPR冊子にて佐伯地域のクラフト関連事業者(4社)を紹介。【佐伯商工会】</p>	<p>・はつかいち木工研究会の出席メンバーに限られている。オリジナル商品が起爆剤となれば良いが、新たなメンバーの参画も必要になる。オリジナル商品の新規販路開拓場所も検討が必要。【産業振興課】</p> <p>・厳島神社世界遺産認定30周年記念とあわせて、宮島特産品振興大会及び宮島産業まつりをアップデートする予定。【産業振興課】</p> <p>・「宮島細工の匠展」は会場側から定例開催の要望あり。予算確保と展示の深掘り(ミュージアム＝宮島歴史民俗資料館の整備への展開)が重要。地域支援員(伝統工芸継承担当)の任期残り1年のため継続関与の仕組みが必要。【宮島町商工会】</p> <p>・宮島彫りは後継者育成が進行したが、杓子の生産者減少が著しく、技術承継の仕組み化が急務。【宮島町商工会】</p> <p>・宮島歴史民俗資料館と宮島伝統産業会館の機能を持った新ミュージアムの検討を進めている。【産業振興課】</p> <p>・今年度初開催したけん玉ジュニアカップでは対象者を市内小学生低学年の3人組と限定したことから、参加者の募集に大変苦労した。来年度は高学年や市外の小学生も対象にすることも検討する。【けん玉WC実行委員会】</p> <p>・一過性のイベント開催で終わることなく、継続性のある事業へと進化させていく必要がある。また、事業者主体で木のまちをはつかいちをPRできるように仕向けていかなければならない。宮島細工の体験に関しては島外でのPRはこれまで少なかったため、来年度以降周知活動を強化していく。【産業振興課】</p> <p>・PR冊子を活用し、敷地の広さ、騒音の許容など、事業環境面の特長、強みも含めてPRし、事業者を呼び込みたい。【佐伯商工会】</p>	<p>木材関連産業の製造品出荷額【450億円】</p> <p>地域産業資源(木製品)について知っている市民の割合【50%】</p>

<p>課題)木のまち・はつかいちとして、森林・林業の育成や市産材の活用、持続可能な森づくりに取り組むこと 環境との共生やSDGsへの対応により持続可能な経済活動に取り組むこと</p>			
<p>●戦術11)産官連携による市産材活用の仕組みの構築、事業化</p> <p>・市産材活用を促進する制度設計、試行、事業化 ・公共空間や建築、製品等での市産材の利用促進</p>	<p>・保育園で利用する木材遊具を、市産材で製造しており、阿品台東保育園に市産材で製造した木材遊具、友和保育園にウッドデッキを納品、設置済み。【農林水産課】</p> <p>・パークゴルフ場で使用するテーブル、ベンチを市産材で製造して、納品済み。【農林水産課】</p>	<p>・林業振興ビジョン作成にあたり、認定事業者である佐伯森林組合・中本造林株式会社、有限会社安田林業にヒアリングを行い、各企業の実情と課題を確認する。【農林水産課】</p> <p>・令和6年度に中本造林株式会社にて整備された大口径製材所を最大限に活用することで、市産材の活用が推進されると考えるため、PRであったり、市により搬出された木材の製材をし、公共建築物や製品等製作を実施していく。【農林水産課】</p>	<p>市産材支給を受けて建設した公共建築物等の数【5施設】</p> <p>地域産業資源(木製品)について知っている市民の割合【50%】</p>

【呼び込む】

【担当課：観光課／宮島水族館／産業振興課】	2025年度の 具体的な取り組み内容	2025年度の 課題／困りごと、今後の見通し	該当するKPI ／参考数値
-----------------------	-----------------------	---------------------------	------------------

戦略4 観光まちづくりのマーケティング／マネジメント機能の強化

課題)マーケティング／マネジメント機能を備えた観光地づくり＝観光地経営を実現すること  
環境との共生やSDGsへの対応により持続可能な経済活動に取り組むこと

<p>●戦術12)レスポンスブルーツーリズム(※)の推進 (※)旅行者も含む責任ある観光</p> <p>・宮島でのテイクアウトの拡大や食べ歩きの定着にともなうゴミ問題等への対応</p>	<p>・宮島口旅客ターミナル及び宮島おもてなしトイレ前にスマートゴミ箱を継続設置。宮島おもてなしトイレ前のスマートゴミ箱については、飲み残しを下水に直接流れるよう改善し、ごみ処理事業者の負担軽減と効率化を図った。【観光課】</p> <p>・表参道商店街の早朝清掃が定着する一方、海岸線の発泡スチロール等が目立つ。事業者によるゴミ拾い、スポーツゴミ拾い・海岸清掃などの活動は増加傾向。【宮島町商工会】</p> <p>・観光マナー啓発イベントとして、10月11月に旅先クイズ会を4回実施した。新たに、修学旅行者にクイズの出題役を担当してもらう体験学習を試験的に実施した。【観光課】</p> <p>・2024年度と同じく6/7に広島信用金庫様とのコラボで海岸清掃イベント「きらっと宮島プロジェクト」を開催。船を貸切り、入浜の清掃活動を実施後、そのまま島を一周し、普段見ることのできない宮島の自然に触れていただいた。また10/4に行った2回目の清掃活動では西松原地区の清掃と宮島水族館のバックヤードツアーを実施した。【宮島観光協会】</p> <p>・11月1日と2日に開催された「宮島産業まつり」内の1ブースとして、牡蠣殻の環境問題に目を向ける牡蠣殻を活用したキーホルダー作りのワークショップ「牡蠣つと宮島DIY」を開催。【宮島観光協会】</p> <p>・宮島エコツーリズム推進協議会は、R4年以降3年ぶりに対面での総会を開催した。引き続き企画運営部会を開催し、新規ツアー造成の検討を行った。新たに、紅葉の賀、六角茶房の2事業者が認定予定。【観光課】</p>	<p>・スマートゴミ箱の増設を検討していく。引き続き宮島島内でのごみ削減について地域一体となって対策を検討・実施していく必要がある。【観光課】</p> <p>・旅先クイズ会は引き続き継続していく予定で、将来的にはボランティアによる自主運営や、修学旅行生の体験学習プラン化を目標としている。【観光課】</p> <p>・牡蠣つと宮島DIYについては、牡蠣殻集積場が満杯になっていることから始めた事業であるが、ここ数年続く牡蠣の生育不良の問題もあることから、現状と即してない懸念もある。牡蠣に関連した別視点からのSDGsイベントも検討していきたい。次年度も継続して、接遇研修を実施したい。また今後高い確率で起こることが予想されている南海トラフ地震への対策などを考える研修会等の実施も検討していきたい。【宮島観光協会】</p> <p>・観光協会、料飲組合によるヒアリングでは表参道から離れた場所にゴミが多いことが課題。ゴミ箱設置など、事業者と行政で時間をかけてでも解決すべき問題。【宮島町商工会】</p> <p>・R6年度に造成済みの人力車エコツアーは、HPの掲載及び販売を開始しているが、実際の販売に至っておらず、ツアー数が少ないため造成後の広報に課題がある。【観光課】</p>	<p>情報のわかりやすさ、入手のしやすさに満足している人の割合【70%】</p>
--	---	--	--

課題)デジタル技術の導入等により、観光関連産業の生産性を向上させること／マーケティング／マネジメント機能を備えた観光地づくり＝観光経営を実現すること  
稼ぐ力を備えた観光関連産業への成長を促進させること / 環境との共生やSDGsへの対応により持続可能な経済活動に取り組むこと

<p>●戦術13)ストレスフリーな観光地づくり</p> <p>・DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進による新しい観光事業や移動手段の検討、展開</p>	<p>・観光DMPの構築 LINEによる観光データの情報発信を開始。蓄積したデータの活用価値のある活用方法を検討するため、観光協会や事業者等を対象にワークショップを開催している。【観光課】</p> <p>・宮島口エリアの2号線沿いに大型ビジョンを設置(令和8年2月予定)し、混雑状況の可視化及び観光情報発信を図っている。【観光課】</p> <p>・宮島まち歩きデジタルスタンプラリーを実施し(1/10～25)、宮島に関するクイズを出題しながら分散した観光スポットを案内するとともに、周遊促進、滞在時間延長を図った。【観光課】</p> <p>・宮島観光協会公式LINEアカウントから引き継いでいる「ストレスフリー観光」の柱でもある宮島島内の女性+多目的トイレの利用状況を示す「トイレ利用状況」サービスについて、観光課へ機能を移管。その他ライブカメラ等のストレスフリーコンテンツについては、継続実施中。【宮島観光協会】</p> <p>・12/26に宮島町商工会様との共催の形で、講師をお招きして「宮島おもてなし研修会」を実施。【宮島観光協会】</p>	<p>・観光DMPの構築 LINE利用者の拡大を図り、引き続き事業者等のニーズを引き出しデータの活用方法の検討を進めていく必要がある。【観光課】</p> <p>・小規模事業者はデジタル機器の導入相談の段階。小規模宿泊設等への自動翻訳機設置は費用対効果が見込める可能性あり。【宮島町商工会】</p> <p>・今後の消費税免税制度(TAXフリー)の変更に伴い、対応方法(個店または一括)の検討が課題。【宮島町商工会】</p> <p>・次年度も継続して、接遇研修を実施予定。また今後高い確率で起こることが予想されている南海トラフ地震への事業者側の対策などを考える研修会等の実施も検討していきたい。【宮島観光協会】</p>	<p>情報のわかりやすさ、入手のしやすさに満足している人の割合【70%】</p>
--	---	---	--

【呼び込む】

【担当課：観光課／宮島水族館／産業振興課】	2025年度の 具体的な取り組み内容	2025年度の 課題／困りごと、今後の見通し	該当するKPI ／参考数値
-----------------------	-----------------------	---------------------------	------------------

戦略4 観光まちづくりのマーケティング／マネジメント機能の強化

課題)近隣商圏からの誘客を図るマイクロツーリズムの普及・定着を図ること / 稼ぐ力を備えた観光関連産業への成長を促進させること  
環境との共生やSDGsへの対応により持続可能な経済活動に取り組むこと

<p>●戦術14)マイクロツーリズムの普及・定着／「適疎」コンテンツの充実</p> <p>・近隣圏域からの誘客と地域ファンの獲得推進 ・地域資源等の魅力再発見 ・地域のネットワークづくり ・密を避けることができる、中山間地域や離島ならではの「適疎」コンテンツの充実(自然体験、アクティビティ、エコツーリズム、ワーケーション、リモートワーク等)</p>	<p>・干潟観察会を4月～6月に4回実施。講演の実施(市内外含めて8回)。SDGsプログラムの新規受付はしていない。【宮島水族館】</p> <p>・伴走型補助金を活用し、複数事業者(11社参加)による面的な旅行商品造成を支援。旅行代理店・外国人留学生10人を招へいしてファムツアー実施。【佐伯商工会】</p> <p>・はつかいち森のあそび場協議会は、継続的に活動中。【佐伯商工会】</p>	<p>・来年度はツーリズムEXPO出展を予定し、旅行商品や観光コンテンツの継続的な磨き上げを実施。【佐伯商工会】</p> <p>・はつかいち森のあそび場協議会は、教育旅行中心ではビジネス化が難しいため方向性の再検討が課題。【佐伯商工会】</p>	<p>観光消費額【310億円】 宿泊観光客数【70万人】  観光客一人当たり消費額【4,000円】</p>
---	--	--	---

課題)ポストコロナ期に向けたインバウンド観光の復活を図ること  
環境との共生やSDGsへの対応により持続可能な経済活動に取り組むこと

<p>●戦術15)インバウンド観光の復活・市内回遊促進</p> <p>・国内在住外国人の誘客推進、インバウンド受入環境整備の充実、インバウンド対応人材の育成、市内回遊促進施策の展開</p>	<p>・大阪関西万博フランスパビリオンで、海外の旅行代理店等を招待し廿日市市のプロモーションイベントを開催した。市内7事業者が参加し、それぞれがプレゼンテーションや商談会を実施しPRを図った。【観光課】</p> <p>・機運醸成をめざして専門家支援によるインバウンド対応支援、インバウンド向け飲食PRサイト「HERE」を継続中。ヴィーガン対応は宮島・宮島口での意欲が高い。【廿日市商工会議所】</p> <p>・インバウンドの富裕層向け商品造成の動きあり。ファムツアーで事業者連携の素地が形成された。【佐伯商工会】</p>	<p>・一過性で終わらせず、行政及び事業者間の連携を深め、チームはつかいちでPRを継続していきけるよう気運醸成をしていくことが大切。【観光課】</p> <p>・AI等の低コストで導入可能な多言語対応の周知・普及不足が課題。宮島ではオーバツーリズム対策優先で、インバウンド誘客への関心が低い傾向あり。【宮島町商工会】</p> <p>・富裕層向け商品造成やオペレーション対応を担う事業者の育成が課題。【佐伯商工会】</p> <p>・新たな宿泊施設が増えていることから、宿泊事業者をはじめ不動産・金融・行政などが参加し、5～10年スパンで大野地域の観光産業の土台づくりや一体感の醸成を図る基盤が必要。【大野町商工会】</p>	<p>観光消費額【310億円】 宿泊観光客数【70万人】 観光客一人当たり消費額【4,000円】</p>
--	--	---	--

【呼び込む】

【担当課：観光課／宮島水族館／産業振興課】	2025年度の 具体的な取り組み内容	2025年度の 課題／困りごと、今後の見通し	該当するKPI ／参考数値
-----------------------	-----------------------	---------------------------	------------------

戦略4 観光まちづくりのマーケティング／マネジメント機能の強化

課題)宮島口の拠点性を活かし、市内観光の周遊化や滞在性の強化を図ること / 稼ぐ力を備えた観光関連産業への成長を促進させること  
生産者と実需者の取引を盛んにすること / 環境との共生やSDGsへの対応により持続可能な経済活動に取り組むこと

<p>●戦術16)「新たなにぎわい×地元事業者」による稼ぐ仕組み</p> <p>・観光交流拠点など集客施設を活かし、市民や近隣住民、観光客の人の流れをとらえたビジネスの創出 ・宮島及び宮島口、宮浜温泉等の観光事業者や市内飲食店等での消費を促す地産地消の仕組みの検討、構築 ・DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進による新しい観光事業や移動手段の検討、展開</p>	<p>・パンフレット情報のバージョンアップ及び増刷を行った。修学旅行生を対象とした旅先クイズ会を試験的に実施した。【観光課】</p> <p>【宮島口】 ・はつこいマルシェ 宮島工業高校の木工のワークショップや観光協会のけん玉の絵付けや杓子ペイントを実施し、廿日市市をPRした。5連けん玉のイベントは外国人にも人気で大盛況だった。【はつかいち観光協会】</p> <p>・はつこいマーケット DMPの研修を参考にして、マーケットの山側、海側、側面に店内のイメージの懸垂幕を設置して、入島者の買上比率の向上を図った。買上比率の結果を検証するために、アンケートを実施、評価をした。また、店内外のサイネージやゆめタウンではつこいマーケットの動画を流してPRをした。【はつかいち観光協会】</p> <p>【大野】 ・まちの駅ADOA大野では、ライブ・日本舞踊・ダンス・婚活等のイベントを地域還元型で開催し、集客増加に成功。【大野町商工会】</p> <p>[宮浜温泉] ・宮浜温泉管理組合との定例会を4回開催し、協議の結果RVパーク3台分を設置する見込み。3号源泉の掘削が完了し8年12月の配湯開始に向け整備している。【観光課】</p> <p>【廿日市】 ・廿日市 新規出店者の募集。お買い上げプレゼントの実施。景品で廿日市のトートバッグプレゼントでPR。【はつかいち観光協会】</p> <p>【佐伯・吉和】 ・佐伯地域、吉和地域のいちご生産者とカフェが相互連携し、新メニュー開発と周遊企画を準備中。【佐伯商工会】</p> <p>【宮島】 ・観光協会が携帯端末でアクセス可能なデジタルマップを制作済み。【宮島町商工会】</p>	<p>・旅先クイズ会については今後ブラッシュアップし、修学旅行生の体験プランとしての商品化を目指す。【観光課】</p> <p>・はつこいマルシェ 宮島口旅客ターミナル前のロータリーが開発工事により、使用できなくなり、しゃもじ広場前の広電宮島口駅舎周辺での開催となり、場所使用料やレイアウト規制がかかり観光客の動線から離れて集客が難しい。【はつかいち観光協会】</p> <p>・はつこいマーケット データ分析で品群・商品の拡大縮小の実施。市場調査、仮設でのインバウンド向けの商品の拡大。展開の無い商品群の新規投入(帽子、マグネット等)。観光地ならではの展示方法や商品開発。【はつかいち観光協会】</p> <p>・宮島口周辺から新設ホテルまでの徒歩でのアクセスの課題(歩道未整備)が顕在化。【大野町商工会】</p> <p>・JR高架化(4～5年後)による人流変化を見越し、駅裏・裏路地を活かした宮島口エリアの街歩きなど面的回遊のしかけが必要。【大野町商工会】</p> <p>・引き続き宮浜温泉管理組合と毎月の定例会を開催し、着実に取組を推進する。【観光課】</p> <p>暑い夏場の時期の来客が少ない。来場客、出展者の高齢化。特に野菜の出店が少ない。来客に向けてPRや新規出店を募集しながら、廿日市のPRをする。【はつかいち観光協会】</p>	<p>宮島口地区開催イベント参加人数【2.5万人】</p>
---	--	---	-------------------------------

【打って出る】

【担当課：産業振興課／観光課／農林水産課】	2025年度の 具体的な取り組み内容	2025年度の 課題／困りごと、今後の見通し	該当するKPI ／参考数値
-----------------------	-----------------------	---------------------------	------------------

戦略5 企業の生産性の向上や新事業の創出支援

課題)大学の知財や金融機関のネットワークを活かした産学金官の連携に取り組むこと / デジタル技術を活用して、生産性の向上に取り組むこと  
地域資源・産業特性×デジタル技術による創業を支援すること

<p>●戦術17)大学の知財や金融機関ネットワーク、デジタル技術をつなぐ場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経営課題の解決や新ビジネスの創出等を促進する産学金官連携の場づくり</li> <li>DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進支援</li> <li>IT人材や技術者等の知財を活用するハッカソン等の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広島工業大学とはつかいち木工研究会が協同で木のまち廿日市をPRするため、オリジナル新商品の開発を行った。広島工業大学のデジタル技術と木工職人の技を取り入れた新商品が完成した。【産業振興課】</li> <li>県事業(水産業スマート化推進事業)として、地御前及び大野海域でのICTパイ設置及びデータ収集・蓄積が進行中。また、漁場環境データや生産データをプラットフォーム化するシステムが運用されている。また、かき幼生検出アプリの利用も開始している。【農林水産課】</li> <li>廿日市商工会議所の建設工業部会で、広島工業大学の「Fab Lab(ファブラボ)」を紹介、積極連携を呼びかけた。【廿日市商工会議所】</li> <li>広島工業大学の学生が「商店街みんなの広場マルマル」の取組に参画中。【廿日市商工会議所】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かきの大量へい死の原因と考えられる高水温や貧酸素に対応するため、ICTパイの設置箇所数の拡充やオプションの追加(DO・SALセンター)について、広島県に要望している。【農林水産課】</li> </ul>	産業支援機関を活用した産学連携の件数【3】
---	---	--	-----------------------

課題)越境ECやD2C等を活用し、ネットによる販路開拓や海外市場への展開を支援すること / デジタル技術を活用して、生産性の向上に取り組むこと  
マーケティング/マネジメント機能を備えた観光地づくり=観光経営を実現すること

<p>●戦術18)EC市場／首都圏／海外の販路開拓支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ネット通販や越境EC等の事業化支援</li> <li>シティセールスの強化による首都圏や海外の販路開拓支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンラインショップ「はい、宮島です。」は12月末までで注文121件、(内海外からの注文3件)【宮島観光協会】</li> <li>OTA(オンライン・トラベル・エージェント)の活用に関するセミナーを開催。【佐伯商工会】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンラインショップ「はい、宮島です。」について、受注数の減や取扱業者の減少が課題。複数の事業者の商品をまとめて注文できる点が売りであるが、小口商品をいちいち観光協会までもって来ることの手間などについて不満を述べる業者が多いのも事実。当初行っていた「もみじ饅頭バラ」についても現在は5個単位から注文を受けられないように変えているが、それではお客様からの魅力度に欠けてしまうジレンマに陥っている。【宮島観光協会】</li> </ul>	産業支援機関等が開催するビジネスフェアへの参加企業数【35社】  産業支援機関等を活用した首都圏、海外での見本市や商談会への参加企業数【20社】
---	--	--	--

課題)大学の知財や金融機関のネットワークを活かした産学金官の連携に取り組むこと / 生産者と実需者の取引を盛んにすること  
デジタル技術を活用して、生産性の向上に取り組むこと

<p>●戦術19)ウィズ/アフターコロナの需要をとらえた事業再構築／新商品・サービスの開発支援、事業継続力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナ対策にともなう業態変更や業種転換等の支援</li> <li>地域資源の活用や企業間のマッチングの場づくり(例:広域的な産業連関強化塾の開催)</li> <li>事業継続力の強化を図るセミナー開催、認定制度の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3商工会が連携して事業継続力強化支援計画を策定。【佐伯商工会、大野町商工会、宮島町商工会】</li> <li>佐伯商工会青年部(15者)及び女性部(33者)が連携型BCP(事業継続計画)を策定。【佐伯商工会】</li> </ul>		経営革新計画承認企業数【150社】  産業経済団体、産業支援機関等を活用したビジネスマッチングへの参加事業者数【100社】  事業継続力強化計画の認定を受けた市内事業者数【50社】
---	--	--	--

【産業インフラの整備】

【担当課：産業振興課/都市活力デザイン課/観光課/農林水産課】	2025年度の 具体的な取り組み内容	2025年度の 課題/困りごと、今後の見通し	該当するKPI /参考数値
---------------------------------	-----------------------	---------------------------	------------------

戦略6 新たな都市活力の創出

課題)関係機関との協議調整、事業面積の確保に取り組むこと / 新型コロナの影響による企業ニーズや働き方等の変化に対応すること  
環境との共生やSDGsへの対応により持続可能な経済活動に取り組むこと

<p>●戦術20)市内企業の留置・市外企業の誘致</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新都市活力創出拠点地区(平良地区)に、製造系・業務系・商業系施設を立地誘導</li> <li>・土地需要への対応や企業の誘致を推進するため、新たな事業用地の確保に向け、調査・検討を実施</li> <li>・オフィス誘致活動の推進(情報サービス業等)</li> </ul>	<p>《未来物流産業団地》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和8年1月、未来物流産業団地造成事業に関する起工式等を開催した【都市活力デザイン課】</li> <li>・企業からのヒアリング状況等を踏まえ、公募に向けた準備を進めている【産業振興課】</li> </ul> <p>《新都市活力創出拠点地区》</p> <p>●Aエリア(観光交流施設用地)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政課題の解決等を図るため、観光交流施設用地の一部において、公共施設等(公園・広場、交通広場、木育体感施設等)を整備する方針であることを公表した【産業振興課】</li> <li>・事業候補者による事業構想の実現に向け、情報共有や意見交換、企業訪問等を行った【産業振興課】</li> <li>・県内企業、市内経済産業団体等で構成される「観光交流エリアまちづくり協議会」の定期総会に出席し、必要な情報の把握等に努めた【産業振興課、経営政策課】</li> </ul> <p>●Bエリア(工業施設用地)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平良丘陵開発土地区画整理組合事務局とともに、立地予定企業を訪問した。【産業振興課、都市活力デザイン課】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公募に必要な各種事項を整理し、公募の時期や条件を決定する【産業振興課】</li> </ul> <p>●Aエリア(観光交流施設用地)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和8年度は事業候補者によるテナントリーシングが本格化する見込みであることから、事業候補者に対し本市内の生産者や事業者に関する有益な情報を提供できるよう産業部内で密に連携する必要がある【産業振興課、観光課、農林水産課】</li> <li>・Aエリアの観光交流施設の情報が不透明で、当初計画との乖離が懸念。【廿日市商工会議所】</li> <li>・Aエリアへの一極集中ではなく、市全体への波及効果に期待。【佐伯商工会】</li> <li>・Aエリアへの施設開業に伴う人材の争奪戦、宿泊業への影響が懸念。一方、広島のほか中央に位置し宮島に近接という立地優位もあり。【宮島町商工会】</li> </ul> <p>●Bエリア(工業施設用地)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Bエリア内の景観形成や環境保全等を目的としたまちづくり組織の設立を行うため、立地予定企業を集めた会合や個別説明を行う【産業振興課】</li> <li>・Bエリアは資材高騰で進出停滞の恐れ。人材争奪、賃金上昇、従業者住宅確保などの環境変化やリスクに対する事前計画が必要。【廿日市商工会議所】</li> </ul>	<p>新機能都市開発事業地に立地が決定した企業の面積割合【100%】</p>
--	---	--	--

【産業インフラの整備】

【担当課：産業振興課／観光課／農林水産課】	2025年度の 具体的な取り組み内容	2025年度の 課題／困りごと、今後の見通し	該当するKPI ／参考数値
-----------------------	-----------------------	---------------------------	------------------

戦略7 「オールはつかいち」の産業支援

課題)地域全体で稼ぐ力を強化する仕組みを構築すること／ マーケティング/マネジメント機能を備えた観光地づくり＝観光地経営を実現すること  
越境ECやD2C等を活用し、ネットによる販路開拓や海外市場への展開を支援すること／環境との共生やSDGsへの対応により持続可能な経済活動に取り組むこと

<p>●戦術21)廿日市版DMO・DMC、地域商社の設立検討</p> <p>・廿日市版DMO・DMCの設立検討:マーケティングの視点から観光戦略の企画実施に取り組み、稼ぐ観光産業の育成、支援</p> <p>・廿日市版地域商社の設立検討:特産品の開発販売、商談サポート、観光関連事業の運営、ふるさと納税商品の開発販売等の事業化を支援</p>	<p>・令和8年4月からの運営開始に向け、「一般社団法人はつかいち宮島ツーリズム」を設立(令和8年2月予定)した。【観光課】</p> <p>(法人の目的) 廿日市市の有する地域資源を最大限活用し、観光ブランドの形成やおもてなし環境づくり、また、観光客の来訪による地域及び経済の活性化を図るなど、市民、事業者、関係団体、行政が一体となり、持続可能な観光地域づくりに資する取組を戦略的に行うことで、もって廿日市市のまちづくりの発展及び市民生活の向上に寄与する。</p> <p>(設立時社員) 廿日市市、はつかいち観光協会、宮島観光協会、廿日市商工会議所</p> <p>(事務局職員(予定)) 計7名:市出向職員3名、プロパー職員4名</p> <p>(事務所) 廿日市市役所1階スペース(旧コンビニエンスストア)</p>	<p>・「マネジメント」・「マーケティング」・「プロモーション」を基幹業務とし、関係団体、事業者、地域住民等との連携・調整を行うハブ機能を担い、直近の課題等への対応と将来を見据えた観光振興、持続可能な観光地域づくりに向け、戦略に取り組む。【観光課】</p> <p>・産業まちづくり委員会に観光課・観光協会が参画しており、DMOも委員会と一体での展開見込み。数値(データ)に基づく対策が実装可能となる。【廿日市商工会議所】</p> <p>・全国各地でDMOの見直し、解散が出ている状況を踏まえ、行政主体で設立しつつ継続的な改善が望まれる。佐伯地域及び吉和地域も意識した広域展開に期待。【佐伯商工会】</p> <p>・既存組織の機能、役割がある中、DMOの新たな軸としてインバウンドが期待される。【大野町商工会】</p> <p>・DMOの分析機能に期待。観光協会との機能重複や、旅館組合等からのデータ提供が機能発揮の前提。【宮島町商工会】</p>	<p>観光消費額【310億円】</p> <p>宿泊観光客数【70万人】</p> <p>観光客一人当たり消費額【4,000円】</p> <p>産業支援機関等を活用した首都圏、海外での見本市や商談会への参加企業数【20社】</p> <p>産業経済団体、産業支援機関等を活用したビジネスマッチングへの参加事業者数【100社】</p>
---	---	---	---

課題)現行組織を活かした全市横断的な産業支援組織を構築すること／大学の知財や金融機関のネットワークを活かした産学金官の連携に取り組むこと  
しごと共創センターと既存支援機関との役割分担を明確にすること

<p>●戦術22)産業支援プラットフォーム機能の発揮</p> <p>・当面「新型コロナウイルス感染症対策産業振興実行委員会」をオールはつかいちの産業支援プラットフォームとして位置づけ、ネットワークを活かしたビジョンの推進</p> <p>・進捗状況を踏まえて、廿日市版DMO・DMC及び地域商社との役割分担や連携の仕組みを検討、構築</p>	<p>・産業まちづくり委員会が他地域にはない連携の場として機能している。【廿日市商工会議所】</p> <p>・各産業経済団体の意見を吸い上げる貴重な場であり、必要に応じて一体的に支援できる点が高い。【佐伯商工会】</p> <p>・他自治体にはない体制で、行政からの積極的な投げかけがあることがよい。【大野町商工会】</p> <p>・市と産業経済団体の一体感があり、金融機関も交えた目線合わせ、意見交換によって実効性の高い施策が実現。【宮島町商工会】</p>	<p>・今後、事業ごとの委託化による事務負担増の懸念。【廿日市商工会議所】</p> <p>・長期スパンの人材投資指針(創業による人材確保/雇用環境改善等)を提示できると機動的。【廿日市商工会議所】</p> <p>・今後も上層部だけでなく担当レベルの意見反映の継続に期待。産業振興課だけでなく観光課・農林水産課を含めた定期的な情報交換の拡充を希望。【佐伯商工会】</p> <p>・地域のブランド化に資する支援・補助金に期待。【大野町商工会】</p>	<p>経営革新計画承認企業数【150社】</p> <p>産業経済団体、産業支援機関等を活用したビジネスマッチングへの参加事業者数【100社】</p> <p>事業継続力強化計画の認定を受けた市内事業者数【50社】</p>
---	--	---	---